

近森オルソリハビリテーション病院 看護部

副院長兼看護部長 中谷 明未

1. はじめに

2025 年は地域医療提供体制の中、前年より病院の病床機能変換（回復期病棟から地域包括ケア病棟へ）を行い、整形外科患者だけでなく内科患者の受け入れに務め、回復期のリハビリテーション機能を持つ病院として「地域医療へ貢献する」という使命に務めた年であった。そして、多職種共働のもと、個々の専門性を活かし、患者と向き合いながら「その人らしさ」を大切にし、常に最善を提案し、安全で安心な医療と看護・ケアの提供に務めている。

2. 病院の状況

当院は、急性期治療の後、在宅復帰に向けたリハビリテーションを提供する病院である。診療科は、整形外科及び内科のリハビリ科であり、病床は急性期一般病床 14 床、地域包括ケア病床 86 床の計 100 床を有している。急性期医療を引き継ぎ、患者を全人的に捉え安心して楽しく暮らせる早期の社会復帰のために最適ナリハビリテーション医療を 365 日休まず提供するという理念に沿って、日々業務に従事している。また、外来リハビリテーション機能を備え、骨粗鬆症マネージャーによる骨折予防などの地域に向けた活動や健診活動も強化している。

2025 年の平均稼働（利用）率は 83.5%（80.2～92.1%）と昨年並みとなっている。受け入れ患者数は延べ 30,471 人、外来患者数は 14,095 人（月平均 57.8 人）である。

3. 看護部の活動

回復期病床を地域包括ケア病床に機能転換し早 2 年が過ぎた。それぞれの病棟においても地域包括ケア病棟として、地域の期待に応えようと様々な患者の受け入れを行い、地域復帰を支援していくことがスムーズにできていると感じるようになってきた。

1) 目標管理と評価

2025 年の当院の目標（図 1 参照）は、ひきつづき地域包括ケア病床の運用に重点を置き、施設基準を満たす人員確保や、内科患者や様々な患者の状態に応じることのできる看護師の体制作りについて、施設・設備の充実、人員の確保と教育、就業環境の改善など様々な取り組んだ。

目標は年度毎に立案し、年度末に評価を行っている。目標管理では、図 1 の看護部目標から、自部署の具体的な目標をたて、更に、3 ヶ月毎に強化目標をたて、各部署で実施・評価してきた。

2) 労働環境・人員確保

労働環境については、感染対策を実施することと、各個人の生活が脅かされないように支援や面談を行った。有給休暇の取得をはじめ、働き方改革を意識した計画をとり、No 残業デーや 5 日連続休暇取得などの実施に向けて活動を行った。バースディ休暇についてはほぼ 100%の取得率となった。

2025 年度も昨年に引き続き新人看護師配置はなかった。昨年に引き続き中途異動の 1 年目看護師は指導者の支えもあり、元気に業務に従事することができている。ラダー申請した 6 名はそれぞれ認定され、中途採用者以外のラダー未取得者は 1 名となった。

看護師の退職は転職のための就職活動や個人の家庭の事情等にて 3 名あったが、内 1 名は保健師の就職活動中のパート看護師であった。中途採用者は看護師 1 名あり、当院の職員からの紹介で入職が決定となった。

3) その他

2024 年度から高知県及び高知県立大学の「入退院支援事業」に参加し、患者や患者の家族を取り巻く医療従事者と地域に関連する人々との連携を強化しながら、実用的な可視化シートの作成に向けて取り組み、できあがりに近づいている。今後はシートを活用し、実際の患者への支援に活用、運用を目指す。

看護の質向上や専門性を高めるために、学会や勉強会への積極的な参加の働きかけを行い、看護協会での看護研究の発表、骨粗鬆マネージャーの学会参加や様々な看護関連学会へ参加をして、取り組みを報告した。昨年度の年間 9 題の学会発表に続き、今年度は日本看護管理学会において、地域包括期の病院としての今後をテーマにインフォメーションエクステンジを企画し発表することができ、多くの参加者も得ることができた。

さらに、DX (Digital Transformation) への取り組みについて、看護業務の効率化を行い、働く環境の充実に向けて積極的に改善・検討・導入をしていく。

2025 年度の目標

近森会グループ：今までの発想にとらわれない自己変革

～高知の地域医療をまもる最後の砦になろう～

近森オルソリハビリテーション病院：

医療スタッフのスキルアップと在宅医療機関との連携

近森会グループ看護部：地域のニーズに応えられる看護の進化／深化

近森オルソリハビリテーション病院看護部：

病院と地域をつなぐ看護・ケアの実践～その人らしい生活を支える 3S 活用～

* 3S：スピード・スマート・スマイル

図 1 2025 年度の目標

委員会報告では、教育・医療安全管理・感染対策の各委員会と、2025 年からは入退院支援を担当する看護師より地域連携部について追加し次項に報告を添付する。

4. 主な委員会活動報告

- 1) オルソ教育委員会資料（添付資料①）
- 2) オルソ医療安全管理委員会資料（添付資料②）
- 3) オルソ感染対策委員会資料（添付資料③）
- 4) オルソ地域連携部資料（添付資料④）

5. おわりに

地域に密着した地域包括期の病院として、これからも個々の患者さんに向き合い、病院目標である、「柔軟性」をもって適切な医療・看護の提供に努めていく。当院の運営基本方針の中に、「あなたのために」の気持ちでよき医療人としてすべての人に接する”とあり、当院に関わるすべての人の安全・安心のためにこれからも地域医療の中の役割を考え、「共に歩む・共に喜ぶ」のフレーズを掲げ、医療・看護に従事していく。

近森オルソリハビリテーション病院 教育委員会

副看護部長・教育代表者 山崎 成美

看護部教育委員会では、看護職員の人としての成長と職業人としての能力開発を目指すことを目的とし、①看護サービスに関して看護職員の学習ニーズに対応するために、必要な教育を行う②研究活動を指導・支援し発表の場を提供するために活動を行った。当院は整形外科及び内科のリハビリ病院であり、専門的知識・技術の教育に力を入れており、日頃から熟練した看護が安全にできることを目指している。

看護の専門職として常に最善のケアを提供するために必要な知識、技術、態度の向上を促すための学習を支援し、体系的に計画された学習や個々が自律的に積み重ねる学習、研究活動を通じた学習などさまざまな形態をとる学習を支援することを目的として活動を行ってきた。

当院は地域包括ケア病棟を有しており、症状緩和や退院支援を行っていくことが中心となり、去年度に引き続き、入退院支援のしくみ作りとスタッフ個々の能力の向上を目指して質の高い看護の実践をいくことが必要になると考えた。

教育委員会活動としては、委員会メンバーが様々な研修の情報を集め、部署スタッフへ研修参加への促しや新人、中途採用や異動者の育成定着、ラダー申請についての支援などを行った。

診療報酬の改定に伴い専門職として求められることが変化していく中で、看護師・准看護師、介護福祉士、看護補助者が安全安心して効率的に業務を行い、質の高いケアを提供できるよう支援を行った。

1. 全職種対象研修会

今年度は、ほぼ計画通りに実施ができた。必須研修感染や医療安全は全員必須の研修のため動画の視聴や各部署内での研修を企画し、実施した。

【表 1】全職種対象研修会

2月10日（月）	【必須】医療安全研修会 『2024年度医療安全委員会セーフティスタッフ活動報告』 講師：医療安全委員会	参加者 141 名 （参加率 99%）
5月7日（水）～ 5月31日（土）	【必須】感染対策研修 衛生学的手洗いと手指消毒の実際 各部署で実施しチェック表を提出する	参加者 145 名 （参加率 98.6%）
7月14日（月）	薬剤管理研修会『こんなこと知っていますか？薬剤の取り扱いについて』 講師：薬剤師 東野 愛	参加者 27 名
8月5日（月）～ 9月19日（金）	【必須】医療安全研修会 2025 年度医療安全セミナー 『トラブルを未然に防ぐカルテの書き方に学ぶ医療安全と法的リスクの対応』58 分 講師：弁護士 山崎祥光先生	参加者 135 名 （参加率 92%）
10月14日（火）	医療機器・医療ガス研修会 医療機器について…輸液ポンプ及びシリンジポンプ、ベッドサイドモニター、AED の使用方法について 医療ガス管理について 講師：近森病院 ME 小川 遵	参加者 28 名
11月11日（月） ～ 12月20日（月）	【必須】感染対策研修会 『ノロウイルス対策について』 講師：鄭 明守 院長	参加者 135 名 （参加率 95.1%）

2. 看護部研修

毎年、診療報酬上必要な研修が占めているが、その中でも日頃の臨床現場で活かせる研修が必要と考え、今年度はリーダーシップ研修を企画した。3回開催し31名の看護師と介護福祉士の参加があった。業務を行う中で、リーダーシップを各スタッフ1人1人が考えて行動できることを目的とした。アンケート内でも「次のリーダーシップ研修があれば参加したい」等の意見もあった。

また、当院看護部の目標にあるように、「地域と共に支える看護・ケアの実践」を念頭におきながら、院外研修へ参加し、学会参加も含め34件65名のスタッフが参加し、グループディスカッション等で新しい学びを得ることができた。

今年度も新人育成を途中から受け入れたが、当院での新人研修の企画はなかった。しかし新人研修担当者と教育委員、管理者が連携を図りながら新人育成を支援することができた。

【表2】看護部研修

2月25日（月）	認知症ケア研修『せん妄及び認知症対応について』の動画の視聴とケア検討会 講師：認知症ケアチーム	参加者 42 名
4月8日（月）	成果報告会 1. 看護研究『リハビリテーション病院における回復患者の睡眠の実態』 4階 田中陽子 2. 感染対策研修会『手指衛生5つのタイミングの意識付けの取り組み』 3階 上田美穂 3. 回復期病院における骨コツ新聞の活動報告 外来 吉本七瀬 4. 看護師長の心理的安全性に及ぼす要因について 看護部長室 山崎成美 5. 看護部長からうける承認行為と看護師長の経験と成長 看護部長室 中谷明未	参加者 27 名
5月10日（月） ・5月26日（月）	1. 医療制度の概要及び病院と組織の理解 講師：看護部長室 中谷明未 2. 看護補助者の役割の理解、看護職と看護補助者との協働について 講師：3階 矢口 操	参加者 50 名
6月23日（月）	退院支援について 講師：医療相談室 MSW 川澤あゆみ	参加者 23 名
8月26日（月）① 9月22日（月）② 12月22日（月）③	リーダーシップ研修 講師：看護部長室 山崎成美	参加者 33 名
8月25日（月）	倫理事例検討会 講師：3階 矢口 操	参加者 14 名
10月29日（月）	医療重症度看護必要度研修 講師：外来 平尾香保	参加者 24 名
11月25日（月）	FLS研修会『骨粗鬆症の知識の共有とFLSの意義について知識を習得する』 講師：外来 吉本七瀬 理学療法士 大原達矢	参加者 18 名
12月8日（月）	褥瘡研修『褥瘡について』 褥瘡対策管理者 講師：西森公美	参加者 26 名

3. 看護補助者研修

看護補助者研修は、S-QUE クリニカルラダー院内研修と感染研修等を組み合わせ 30 分程度を目途に集合で行った。全員参加は難しく、タイムリーに受講できなかったスタッフは事後でレクチャーをするようにした。技能性は 5 名となっているが、日本語の理解度もまだ十分ではない為今後の課題として、研修理解度の確認もしていく必要がある。また、現在時間外での研修となっている為、業務時間内での研修企画を考えている。

介護福祉士の研修は、学研 e-ラーニングの内容を提示し 3 ヶ月に一度のペースで受講してもらいチェック表で提出してもらった。

【表 3】看護補助者研修

5 月 19 日（月）・ 5 月 26 日（月）	看護補助者の役割の理解、協働について ・医療制度の理解 ・チーム医療の一員となるための役割と責任 ・当院での看護補助者業務について	参加者は看護部の同研修と兼ねる
6 月 20 日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修（ケアスタッフ向け） 安全な排泄介護と転落予防①排泄の準備②トイレの排泄介護③ポータブルトイレの排泄介護おむつ交換』	参加者 18 名
7 月 18 日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修（ケアスタッフ向け） 洗体の基礎と入浴前後のチェックポイント①入浴の目的事前の確認②洗体の基礎と入浴前後の基礎知識③洗体と清拭	参加者 16 名
9 月 19 日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修（ケアスタッフ向け） 安全な食事介護と誤嚥予防①安全な食事介護食事前の準備②食事の介護③ベッド上での食事介護口腔ケア	参加者 15 名
10 月 20 日（金）	感染予防について 「手洗いについての演習」講師：関恵里	参加者 20 名
11 月 21 日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修（ケアスタッフ向け） 接遇マナーとコミュニケーション①介護の心がまえ②交換の持てる誠意ある態度とは③信頼関係とコミュニケーション	参加者 15 名

4. 看護実習

今年度の実習は 3 校の実習の受け入れを行った。

高知中央高校についても生徒数の減少から、当初の実習計画日数より実習日数が減少していた。実習間隔があくと指導力もやや低下するのではないかと心配したが、実習担当者会での情報共有や看護師長や主任の支援もあり実習指導ができた。可能なケアの介入をスタッフと共に実践し、個々の学生に応じた指導にも意識しながら、指導者と教員が連携し関わることができたのではないかと考える。2025 年度は、令和 7 年度保健師助産師看護師実習指導者講習会へ 2 名参加し、指導者を増やすことで実習指導を充実させていきたい。

【表 4】

1.	基礎看護学実習 5/8 (木) ～5/27	近森病院付属看護学校 2 年生 10 名
2.	成人看護学実習 6/5 (木) ～7/1 (火)	高知中央高校専攻科 1 年生 9 名
3.	基礎看護学実習 7/3 (木) ～7/16 (水)	高知学園短期大学 2 年生 6 名
4.	基礎看護学実習 9/23 (水) ～9/26 (月)	高知中央高校 2 年生 9 名
5.	基礎看護学実習 10/7 (火) ～10/15 (水)	高知中央高校 3 年生 6 名
6.	成人看護学実習 10/16 (木) ～10/15 (木)	高知中央高校 3 年生 6 名
7.	老年看護学実習 11/18 (火) ～11/28 (金)	高知中央高校 3 年生 6 名
8.	成人看護学実習 12/22 (月) ～12/24 (金)	高知中央高校 3 年生 3 名

5. その他

(1) 学会発表

【表 5】

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
リハビリテーション病院における回復期患者における睡眠の実態	○田中陽子 土居さわ、南みわ、 松田恵実、関恵里	高知県看護協会研究学会	2 月 21 日
中規模病院が地域医療を支えることができるのか ～回復期から地域包括期へ変わる今、高知県の A 病院の現状をみる～	中谷明未 山崎成美 関 恵里	第 29 回日本看護管理学会学術集会	8 月 22 日～8 月 23 日 (北海道)
中規模病院の一般外来に就業する看護師の職業経験の質と外来看護実践能力の構造	関 恵里	第 29 回日本看護管理学会	8 月 22 日～8 月 23 日 (北海道)
回復期病院の外来における「骨コツ新聞」活動の現状	吉本七瀬 関恵里、 平尾香穂	第 27 回骨粗鬆症学会	10 月 11 日～1 0 月 13 日 (石川)

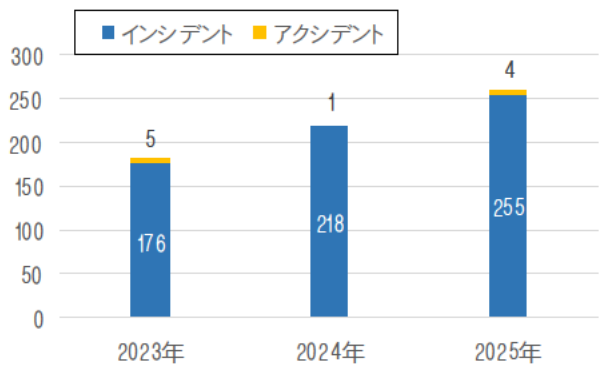
(2) 管理者研修

- ① 令和 7 年度認定看護管理者過程セカンドレベル研修
外来看護師長 関 恵里
- ② 高知県看護管理職研修会
3 階病棟看護師長 矢口 操

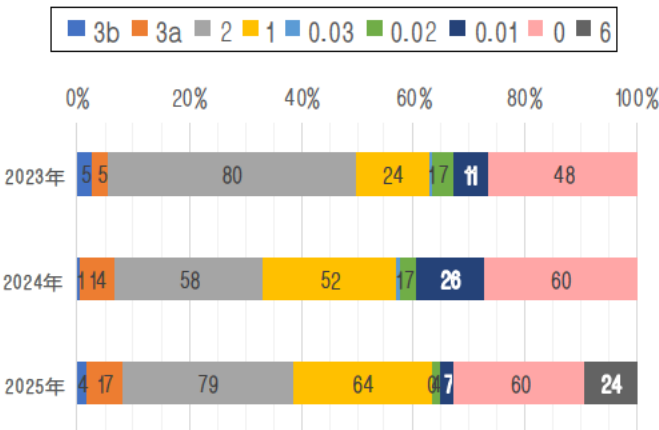
近森オルソリハビリテーション病院 医療安全委員会

看護師長 小松潤子

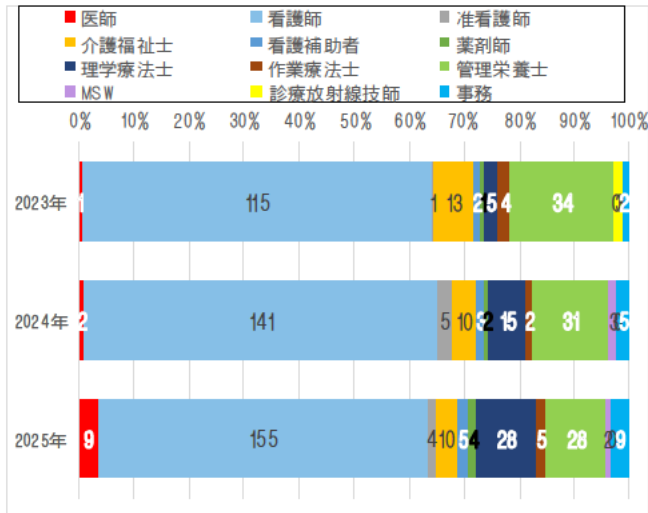
◆インシデント・アクシデント報告（表 1）



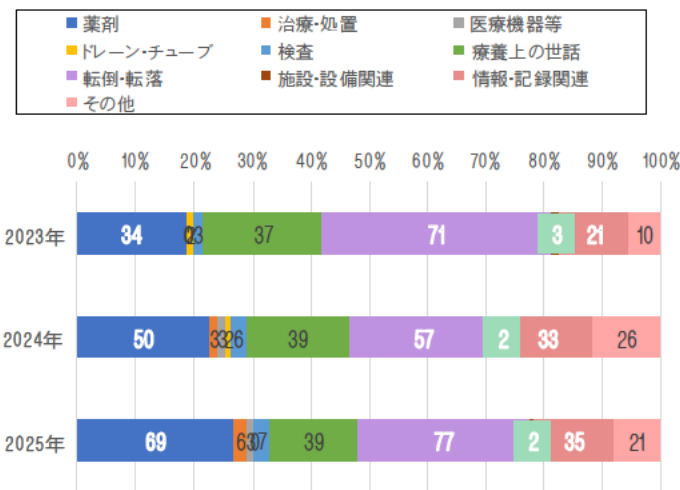
◆事象レベル（表 2）



◆内容別報告件数（表 3）



◆職種別報告件数（表 4）



インシデント・アクシデント報告

2025 年度には 255 件のインシデント報告件数（表 1、表 2）があり、2023 年以降年々増加傾向を示した。一方でアクシデント件数は 4 件であり、ここ 3 年を比較し大きな変動はなく概ね横ばいで推移している。2025 年 5 月にセーフマスタのバージョンアップが実施され、事象レベル分類が変更された。従来 0.01～0.03 に細分化されていた軽微事象は「レベル 0」に統一され、さらに医療行為を伴わない事象（医療機器関連やクレーム等）は「レベル 6」に分類変更された。このため、2025 年の件数増加には分類基準変更も多少なり影響していると思われるが、報告件数の増加については、安全文化の定着およびヒヤリ・ハット事象の早期報告が浸透してきた結果とも考えられる。

職種別（表 3）では例年と同様に看護師からの報告が最も多く、全体の約 6 割を占めている。ただ、その他の職種からの報告、特に医師、理学療法士からの報告が大幅に増加しており、多職種による安全意識の広がり、また組織全体がそれぞれの事象に対する再発防止への取り組みが徐々に根付いてきた結果であると考えられる。それでもまだ職種間での差はあり、報告件数が明らかに少ない部署もあるため、各部門の所属長と連携し情報共有していきたいと考える。

内容別（表 4）では、昨年同様「転倒・転落」が 77 件と最も多く、次いで「薬剤」の 69 件であった。2025 年に発生したアクシデント 4 件のうち 3 件が転倒による骨折事例となり、3 件とも介助を

伴わない自立動作中の骨折であった。患者自身の移動能力や身体状況の過信、スタッフへの遠慮など、定期的な観察や患者指導だけでは防ぎきれない困難事例も増えている。今後の課題として、日々変化する患者状態のアセスメントをしっかりと行い、個別性のある患者指導を継続的にを行い、また見守りや環境調整についても看護師だけでなく看護補助者など職員すべてが協力し行っていくことが求められる。

また、「薬剤」関連のインシデントでは自己管理中の服薬間違いが最も多かった。当院ではすべての患者に対して入院時に「内服管理能力評価表」を活用し、入院後の薬剤管理方法を評価している。今回のことで、患者自身の内服管理能力評価が入院時だけでなく、入院中の適正なタイミングに適正に評価ができていないのかを振り返り、次年度は業務委員会と協力し、現行の「内服管理能力評価表」の運用手順の見直しを予定している。服薬間違い以外では、看護師の薬剤処理に関する報告も多く、指示受けや6Rの遵守など、継続指導の重要性を感じている。

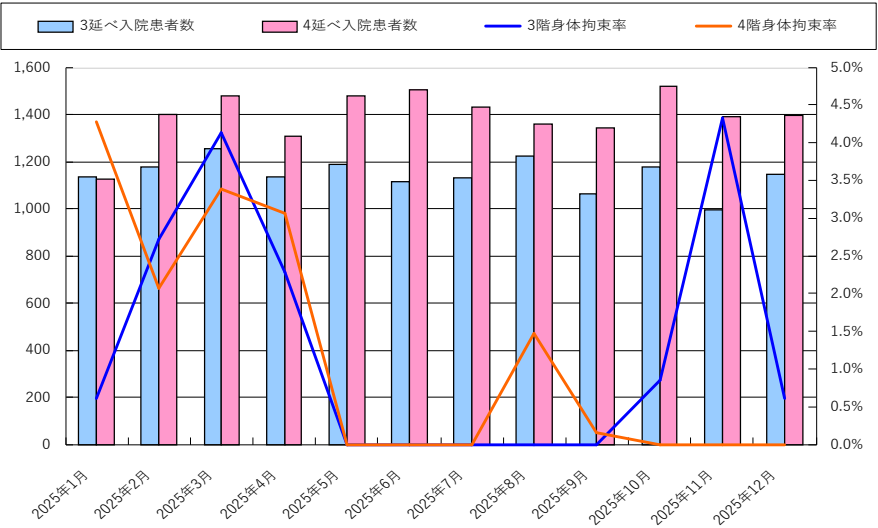
委員会活動

医療安全下部会（セーフティスタッフ会）メンバーは各部署で所属長が選出した多職種メンバーで構成される。そのためセーフティスタッフの役割について、理解できていないまま会に参加していることも多く、2025年の取り組みとして、年度初めにセーフティスタッフの役割や、部署で起きたインシデント事例に対する分析方法について委員会内で勉強会を実施、医療安全活動についての理解への教育を行った。実際に各部門で発生した事例をもとに、RCA分析やSHELL分析を活用することで、事例の背景に着目し改善策を検討し当該部署へのフィードバックまでつなげることができた。こうした経験をもとに、自部署で発生した事例に対してセーフティスタッフ自らが事例の振り返り時のファシリテーターとして、役割を果たすことを期待している。

昨年に引き続きグループ活動では①医療安全ガイドラインの見直し、研修企画、②環境ラウンド、転倒予防、③内服、患者誤認予防の3つのグループに分かれ、月2回のセーフティスタッフ会のうち1回を活動日としそれぞれの課題に向けグループワークを行い、今年度の医療安全研修企画運営や環境ラウンドの見直し、薬剤管理方法の検討など限られた時間のなかで積極的に活動することができた。

その他安全活動として、毎年2回行っているリストバンド装着状況調査、転倒リスクアセスメントの表示遵守状況調査を行い、調査結果と合わせその必要性についても再度周知している。

◆身体拘束推移（表5）



身体拘束最少化に向けた取り組み

2024年より院内で医師2名を含む身体拘束最小化ワーキングを発足。毎月の身体拘束件数の把握や適正な実施状況の確認、記録について実際に定例会当日にメンバーで病棟ラウンドを行っている。身体拘束に関する文書改訂や運用についても、近森病院のワーキングに参加することで、タイムリ

ーに運用の修正及び職員への周知ができた。

2025 年の当院における身体拘束実施率は 3 階・4 階病棟の平均で 1.2%であった（表 4）。3 階病棟がわずかに実施率が高い傾向にあるが、その理由のほとんどが本来であれば安全対策用品で可能な状況でも、レンタル委託業者の物品不足が要因であった。2025 年にはセンサーベッドやセンサーマットなど安全対策として使用する物品の購入が決まったこともあり、2026 年は身体拘束ゼロを目標に取り組んでいきたい。

院内研修会

◆2025 年医療安全研修会の内容と参加率

開催日	研修名	内容	対象者と参加率
2025/2/17～ 3/17	2024 年度下期 院内研修会	テーマ「2024 年度医療安全活動～医療安全ラウンド、写真を見て KYT！（危険予知トレーニング）」セーフマスターeラーニング ①医療事故防止・再発策並びに発生時の適切な対応など、当院における医療安全体制を理解する ②インシデント報告 ③院内ラウンドであった写真を見て KYT	全職員 141 名 参加率 99%
2025/4/22	新人研修	①医療安全に対する考え方を理解する。 ・ヒューマンエラーを理解する ・インシデントレポートについて	新人職員 3 名 参加率 100%
2025/8/5～ 8/25	2025 年度上期 院内研修会 ※近森グループ合同	テーマ「『トラブルを未然に防ぐカルテの書き方』に学ぶ医療安全と法的リスク対応」 講師：弁護士 山崎祥光先生 ①カルテ記載の訴訟での扱い ②紛争の視点からのカルテ記載の考え方 ③具体的な場面毎の記載内容	全職員 140 名 参加率 100%

近森オルソリハビリテーション病院 感染対策委員会

感染対策副委員長 関 恵里

活動

2025 年度も新型コロナウイルス感染症等の継続した対策が必要であり、『安全と安心な医療の提供と自己を守る』ことを目的に活動を行った。病院全体で継続的で統一した取り組みと、各部署での状況に応じた感染対策が重要となってくるため、感染ミーティングや、ICT 活動、委員会活動を継続し、各部署の課題の抽出と改善に取り組んだ。

院内研修では、感染対策の基本となる「手指衛生」と「個人防護具の着脱」をテーマとした、新人職員研修を行った。上期の研修では、感染対策の基本である「衛生学的手洗い・手指衛生」を各部署の ICT が中心となり手技の確認を行った。下期の研修では、「ノロウイルス対策について」研修を行い、当日研修を受講できない職員は各部署の ICT を中心に、セーフマスターも活用し、ほぼ全職員が受講することができた。

院外研修では、「新興感染症対応力向上研修会」にも参加することができ、貴重な学びの経験を得ることができた。また、感染対策向上加算 3 にかかる地域連携では、近森病院や他院との連携や研修を通して、当院の感染対策の見直しを行う機会を得ることができたことは大きな成果であった。

1 年を通して、様々な感染状況の把握と対策に追われる日々であったが、オルソ全職員が感染対策に寄与するところが大きく、今後も明らかになった課題解決も含め、オルソ全体として取り組んでいけるよう感染対策活動を行っていきたい。

表 1:2025 年 1 月から 2026 年 1 月院内外研修会

研修日	研修会名	参加人数
2 月 1 日	令和 6 年度感染症危機管理に関する研修会 『改正感染症法をふまえた高知県の感染症対策について』	2 名
5 月 15 日	オルソ新人教育（感染研修会）	3 名
5 月 7 日～ 31 日	2025 年度オルソ感染研修会・上期 『衛生学的手洗い・手指衛生』	145 名
10 月 17 日	看護補助者研修（感染研修会）	3 名
10 月 18 日	令和 7 年度新興感染症対応力向上研修会 『第 2 回研修会：座学及び訓練』	4 名
11 月 22 日	令和 7 年度新興感染症対応力向上研修会 『第 3 回研修会：座学』	3 名
12 月 10 日	中途入職看護師研修（感染研修会）	1 名
11 月 10 日～ 12 月 20 日	2025 年度オルソ感染研修会・下期 『ノロウイルス対策について』	135 名

ICT ラウンド：2 名以上の多職種で 1 週間毎

週報と菌の感受性報告：1 週間毎

マニュアル改訂

感染ミーティング：2 ヶ月毎

オルソリハビリテーション病院 感染対策下部委員会：第 4 水曜日

オルソリハビリテーション病院 感染対策委員会：第 2 水曜日

表 2:2025 年 1 月から 2026 年 1 月感染対策向上加算 3 にかかる地域連携の実施

※連携先：社会医療法人近森会 近森病院（感染対策向上加算 1 届け出病院）

日時	場所	内容	参加人数
10 月 27 日 13:30～ 15:00	当院 8 階 ミーティング室	連携訪問（来訪） 当院の感染対策状況の確認。感染対策向上加算の説明と今後の連携について	4 名
12 月 3 日 15:00～ 16:00	近森病院管理棟	2025 年度第 3 回感染対策向上加算にかかる地域カンファレンス 手指衛生遵守率向上の取り組み等	2 名

※連携先：高知市医療企業団立 高知医療センター（感染対策向上加算 1 届け出病院）

日時	場所	内容	参加人数
11 月 20 日 15:45～ 16:45	高知医療センター 1 階研修室	2025 年度第 3 回感染対策向上加算にかかる地域カンファレンス（訓練） 新興感染症対応個人防護具の着脱等	4 名

近森オルソリハビリテーション病院 地域連携部

入退院支援担当シニア看護師長 岡村 美紀

【はじめに】

2008年10月に整形外科専門のリハビリテーション病院として開院しました。地域連携部では、近森病院を主とした急性期病院からの入院相談や、在宅からのレスパイト入院の相談など地域の医療機関等との連携を行っています。また、適切な病床管理を行い、柔軟な受け入れができるよう調整をしています。2024年1月には医療情勢の変化へ対応にて、病床機能を回復期リハ病棟より地域包括ケア病棟へ転換をし、院内の環境整備を行い、内科疾患などを主とする患者の受け入れも開始しました。引き続き、在宅からの受け入れ体制の構築、在宅医療機関との連携を図り、柔軟性を持った当院の強みをいかながら、地域医療に貢献していきたいと思えます。

【地域連携部の体制について】

看護師1名、ソーシャルワーカー1名

【地域連携について】

相談件数：789件

入院件数：636件

近森：520件 外来：35件 院外：81件（うち外科系：516件 内科系：120件）

病床稼働率：83.49%

転院に至らなかった件数：172件（他院併行相談によるキャンセルなど）

【今後の課題】

地域医療機関との連携強化と病床管理の洗練化、入院中の患者や家族の不安に寄り添い退院後の生活を見据えた退院の調整や支援を継続し、地域包括ケアの構築、また、当院の強みを活かした地域への広報活動の取り組みも行っていきたいと思えます。